特集
おもしろ研究・先生
Ⅷ

ベトナムのストリートチルドレンと共に ～学びの門をたたく～

三重大学国際交流センター・教授
吉井 美知子 Yoshii, Michiko

ホーチミン市にあるピンチュウ能力開発センターにて

きっかけはバレーボール

小学校から続けていたバレーボールが、私とベトナムを引き合わせてくれました。大学を卒業後、留学先のパリで出会ったバレーボール仲間は、ボートピープルとしてフランスに逃れてきたベトナム人でした。彼らと食事を共にし、コミュニケーションを深める内に、とうとうベトナムにはまって1991年にはパリ大学ベトナム語学科の修士号を取得し、帰国後就職した専門商社では1993年にベトナム駐在事務所の初代所長に任命されました。同時にストリートチルドレンのケアをする団体に寄付を始めました。その後、団体経営者のベトナム人と結婚、本業の傍らNGO設立や経営を手伝う羽目に。元来ボランティアや国際協力に興味はなかったのですが、やっているうちに年々規模を拡大するNGOの広報活動が面白くなってしまったのでした。

ストリートチルドレンとは

ストリートチルドレンの定義は様々かつ、その数も流動的でベトナム全国で2万人とも20万人とも言われています。しかしその多くは18歳以下の子どもたちで、靴磨き・屑拾い・スリなどをして路上生活を営んでいます。現在私は、そのような学校に行けない子どもたちを集めて、寄宿生ケアや小学校に代わる無料授業の提供等の活動に協力していますが、「よいこと」をしているはずが、集会・結社の自由がない社会主義国では必ずしも歓迎されません。子どもたちにとっては貴重な支援でも、政府からは嫌がらせを受けて苦労の多い活動でした。やがてそのボランティアNGO活動がキャリアとして認められ、2001年にJICA※1専門家に転職して以来、ODA※2の実務家としてベトナムとモロッコで勤務することになりました。

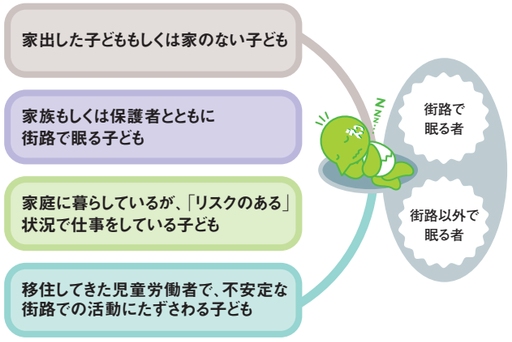
※1：途上国支援等を行う国際協力機構　※2：貧困の撲滅を掲げる政府開発援助

◎F.F.S.C.ホーチミン市ストリートチルドレン友の会
http://www.geocities.jp/ffsc_saigon/

子どもたちが作成した職業訓練作品

ストリートチルドレンの分類

出展：Terre des Hommes Foundation 2004 ※3 を和訳



※3：A Study on Street Children IN HO CHI MINH CITY (Reference Document)
: National Political Publisher Hanoi - 2004

ホーチミン市にて空き缶を集めるストリートチルドレンの女の子

母、学びの門をたたく

転職したら、これまでのNGO活動を理論的にまとめたくなりました。当時、10歳と4歳の二児の母でしたが、元来よりの勉強好きの性分を抑えきれず、博士進学を決意しました。気持ちが固まれば、一直線。入試に数学があったので高校の問題集を取り寄せて頑張りました。2004年4月に家族をベトナムに置いて東京大学大学院に単身留学、学生寮とキャンパスのある本郷を往復する毎日を過ごし、2007年モロッコ勤務中に国際協力博士号を取得し、2008年に三重大学に就職して現在に至ります。これらのキャリアはすべてベトナムのストリートチルドレンのおかげといっても過言ではありません。

ベトナムから学ぼう

これまでの研究では、社会主義国ベトナムで市民が政府の迫害に耐えて活動を続けるメカニズムを検証していましたが、その中で日本はベトナムを支援する側でした。しかし23年の海外生活を経て帰ってみれば、日本でも子どもたちを取り巻く社会問題が深刻化しています。集会・結社の自由が保障されている日本の市民がベトナムから学べることはないか。「日本＝先進国＝支援する側」という図式を超えて、今後は「ベトナム＝途上国＝でも日本が学ぶことがある」という図式を探ってみたいと思っています。